

1999年2月24日 (水) 物流ニッポン 列島ワイド  
厳しいときこそチャンス / コンサル営業で勝ち組 九運青協ゼミ

北九州各県の若手経営者、後継者・管理者で組織する九州地区運輸青年部連絡協議会(通山 顕治会長)の第13回合同セミナーが20日、鹿児島県始良郡霧島町で開催され、九州各県と沖縄県から200人が参加した。九州はひとつ - さらなる発展!」をテーマに、1.コンサルティング営業の具体的方法2.グリーンロジスティクスの現状と今後の展望3.流通業マーケティングから見た物流改善のポイント- の3分科会に分かれ、「厳しいときこそチャンス」と位置付けた熱心な意見交換が行われた。九州運輸局の上子道雄局長、開催地の鹿児島県トラック協会の菊池和則会長らが来賓として出席、21世紀を担う若手経営者に期待を込めメッセージを送った。

(株)日本ロジファクトリーの黒澤明氏が「相互利益を生み出すコンサルティング営業の進め方」をテーマに基調講演。厳しい環境こそチャンス。荷主にとって物流は、企業戦略の必要条件となっている。物流の提案力を身に着けることで、荷主との温度差をなくし、パートナーシップが確立できる。今こそ、コンサルティング営業で勝ち組になれる」と指摘、基本的な考え方や具体的手法について説明した。

分科会では、黒澤氏の基調講演を踏まえ、成功事例などを紹介しながら実践に向けた具体的な方法論を討議。第2分科会では、産業廃棄物やリサイクル物流などに代表される「グリーンロジスティクス」について研修、消費者のリサイクル意識の高まりの中、採算性を含めた将来展望などを話し合った。

通山会長は、あいさつの中で「青年経営者が第一に取り組むべきことは、多数化、高度化する物流需要に、迅速かつ的確に対応し、荷主、消費者の良きパートナーとして信頼される会社になること」と述べ、サービス、付加価値、提案力を持つことの重要性を指摘。物流構造の変化に対応する経営のあり方を模索しよう」と呼び掛けた。

上子氏は「トラックが物流の主役であることに自信を持ち、経営に取り組んでほしい。産業構造が変化する中、経営者として日々研さんに努めている姿は頼もしい」とエールを送った。

菊池氏は「21世紀を目前に、若手経営者の活躍の場は大いに広がっている。新しい道筋を切り開くには的確な選択と決断が重要だ。情報化社会の今、時代をにらむアンテナは不可欠」と檄(げき)を飛ばした。